

ヤタガラスに託す思い

—日本サッカーのあゆみとともに—

はじめに

1) 自己紹介—なぜ私がここにいるのか？

①二つのシンポジウムに深くかかわった

2009年3月21日 那智勝浦で「中村覚之助と日本サッカーの夜明け」

2010年2月6日 東京で「熊野の中村覚之助」

②その背景は…

2) メインテーマ「ヤタガラスに託す思い」について—「誰の“思い”」か？

①JFAのシンボルマークをヤタガラスにした方々の“思い”

「内野台嶺」と「日名子実三」、そして「熊野の中村覚之助」

②日本ヤタガラス協会設立にあたっての、私（たち）の“思い（願い）”

1. 「日本サッカーのあゆみ」とヤタガラス

1) 日本サッカーの普及と発展の起点は、東京高等師範学校（いまの筑波大学）である。

初代主将は中村覚之助。大きな功績を残したが28歳で他界したため知名度は高くなかった。

2) 1921年の日本サッカー協会（JFA）創設にも東京高等師範学校の関係者が深くかかわる。

シンボルマークは「三足鳥（八咫鳥）」

3) 日本サッカーはアジア諸国をはじめ諸外国との交流の中で発展してきた。

そして2021年に100周年を迎える。

2. 日本ヤタガラス協会設立にあたって

1) 「日本」と、(改めて) 向き合う機会としたい。

—ヤタガラスで国内各地とつながろう／つなげよう！

—ヤタガラスで昔といまをつなげよう！

2) 「世界」と、(改めて) 向き合う機会としたい。

—ヤタガラスで東アジアと、そして世界とつながろう／つなげよう！

“時間”と“空間”を越えて“仲間”の輪を広げていきましょう！

中塚義実（なかつかよしみ）

1961年生まれ。大阪府出身。

特定非営利活動法人サロン2002 理事長

日本サッカー史研究会メンバー

筑波大学附属高等学校保健体育科教諭・サッカー一部顧問

筑波大学リビッツ教育プラットフォーム（CORE）運営委員

全国高体連研究部活性化委員会委員長

（公財）東京都サッカー協会フットサル委員（第2種部会長）

筑波大学蹴球部同窓会茗友サッカークラブ 前理事長



日本へのフットボールの伝来

- ◆外国人居留地に“クラブ”が生まれる
1868(明治元)年 YC&AC(横浜外人クラブ)
1870(明治3)年 KR&AC(神戸外人クラブ)
- ◆軍人や教師によって近代スポーツが紹介
1872(明治5)年 野球伝来
1873(明治6)年 サッカー伝来
=築地の海軍兵学寮にてダグラス少佐とその部下33名
- ◆教育制度が整えられ、「体操」が導入される
「体操伝習所」(1878~1885) さまざまな遊戯が紹介
1886 東京高師体育専修科に改組
※坪井玄道『戸外遊戯法』(1885)...フットボールを紹介
1893 東京高師に嘉納治五郎校長着任!

1896(明治29)年3月「運動会」設立

柔道部、撃剣及び銃槍部、弓技部、器械体操部、ローンテニス部、フットボール部、ベースボール部、自転車部の八部に分ち、生徒は其の一部若しくは数部に入りて、毎日三十分以上必ず所属の部について運動をすること

1901(明治34)年10月「校友会」に改組

1902(明治35)年4月 坪井玄道が欧米視察から帰国

1903(明治36)年4月 大塚窪町に移転

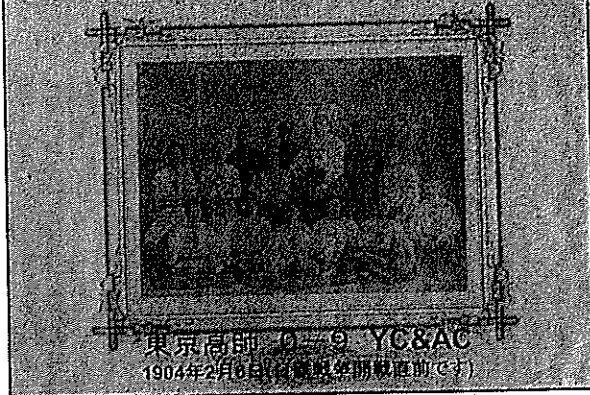
1903(明治36)年4月 大塚へ移転

「全生徒は35年5月、一足先にできた寄宿舎に入舎して、そこから1年間お茶の水に通った。大塚の新運動場の予定地は雑木雑草に埋められていたが、中村君以下部員一同整地に努め、蹴球のフィールドに棕櫚縄(しゆるなわ)を張りめぐらして石灰線の代用としたり、ゴールを建てたりした。一方中村君から蹴球に関する運動規約を習って実地訓練を開始した」(堀桑吉氏の寄稿より)

中村覚之助の略歴

- ・明治11(1878)年5月 和歌山県那智勝浦町で生まれる
- ・明治32(1899)年3月 和歌山師範学校卒業
4月 宇久井高等小学校にて教師になる
- ・明治33(1900)年4月 高等師範学校博物科入学(22歳)
- ・明治36(1903)年10月 『アツシエーション・フットボール』出版
※東京高師 大塚窪町に移転(1903年4月)
- ・明治37(1904)年2月6日 東京高師vsYC&AC
3月 東京高等師範学校博物科卒業
4月 東京府立第一高等女学校(現白鷗高)着任
- ・明治38(1905)年 清国山東省済南師範学校に着任
- ・明治39(1906)年7月3日 逝去(28歳)

日本で最初のサッカー試合に臨んだメンバー



「赴任地にゴールポストを！」

- 明37(1904) 中村 覚之助 → 清国山東省済南府師範学堂
- 明39(1906) 堀 桑吉 → 愛知第一師範
- 明41(1908) 細木 志郎 → 埼玉師範
- 明41(1908) 牧野 信寿 → 広島師範
- 明41(1908) 内野 台嶺 → 豊島師範 → 東京高師
- 明42(1909) 落合 秀保 → 滋賀師範
- 明42(1909) 玉井 幸助 → 御影師範
- 明44(1911) 松本 寛次 → 広島一中
- 大3(1914) 高橋 英治 → 刈谷中
- 大9(1920) 北村 春吉 → 静岡師範
- 昭7(1932) 河本 春男 → 神戸一中

内野台嶺在学中に、中村覚之助の訃報が届く

「いだけん」金栗四三の同期生

東京高師校友会誌 第10号 (1906年6月?)

○當部の始祖、中村覺之助君は遠く清國に在りても深く我が部の為めを思はれ、當部活躍発展の一助として、多数の金員を寄寄せられる。部員一同の感佩(かんぱい)する所なり。(略)一同は不肖なりと雖も、此等の厚志を空うせざらんことを期し、更に邦家の為め、奮励一番、全力をあげて此の技の研鑽委に盡し努力勤勉以て其効果を全うからしめんことを期す。

○近来各種の學校に、この技の盛に行はれんとする傾向あるは、邦家為め、吾人は双手をあげて之を祝するものなり。

東京高師校友会誌 第11号 (1906年10月?)

○齊山師範よりの競技報教授依頼

○本科一年対本科二三年マッチ

○打ち合わせ茶話会

～十月十日打ち合わせ茶話会を有朋館に開きぬ。部員集まるもの五十餘名、部長坪井先生は特に臨席せられて、欧米に於けるフットボールの状況等に就て談話ありたり～

○本科一年文科、理科対抗マッチ

○故中村覺之助君を想ふ

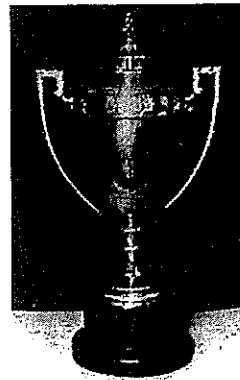
七月九日我が蹴球部創設者中村覺之助君の訃報に接せり。君は明治三十七年三月本科博物科を卒業し、濟國山東省濟南府師範學堂に教鞭を執られしが、病を得、夏季休暇を利用して、故國に帰り療養せむとし、六月二十八日神戸に薨したりしが、～

東京高師校友会誌 第11号 (1906年10月?)

○故中村覺之助君を想ふ

～六月二十八日神戸に着したりしが、七月三日病遂に革まり同夜、溘然(こうぜん)不歸の客となられたり。吾部は君の過去に於ける功勞を思ひて、実に悼惜に堪へざるなり。吾部の創設や全く君の力によれり。吾部の名にて出版せられし「アツシエーション、フットボール」は實に君が自ら筆を執られしものなり。當時我國に於てフットボールの智識を有するものなく、依る可き書も稀なりしを、奮然此舉に出でられし熱心思ふべし。爾來瞬時も我が部を念頭より去らず、或は多大の金員を贈り、其他種々の方法を以て、選手を指導し奨励せられ、常に吾部の為にのみ謀られたりしが、此度はからずも其訃音に接しぬ。然れども我等は信ず、君の靈は永久に吾部の護身となりて指導せらるべきを。吾等は君が生前の功勞を追想し、其遽逝を痛惜し茲に恭しく弔意を表す。

FA杯と大日本蹴球協会の設立



嘉納治五郎の命を受け、
内野台嶺部長が尽力
1921年9月10日
大日本蹴球協会設立



JFA旗に描かれた三本足の鳥は、日の神＝太陽を表しています。光が輝いて四方八方を照らし、球を押さえているのは私たち日本のサッカー界を統制・指導することを意味しています。淮南子(えなんじ)という中国の古典や芸文類聚五經正義という本に、太陽の中に三本足の鳥がいてと書かれています。また、日本神話にも、神武天皇御東征の際に、タカミムスビ(日本神話の神)によって三足鳥が神武天皇の元に遣わされ、熊野から大和への道案内をしたと言われてい

ます。
FA旗の黄色は公正を、青は青春を表し、はつらつとした青春の意気に包まれた日本サッカー協会の公正の気宇を表現しています。このシンボルマークは、東京高等師範学校の内野台嶺(JFA理事)ら当時の協会役員らが発案し、彫刻家の巨名子襄三氏がデザイン化。1931(昭和6)年6月3日に理事会で正式に採用することが決まりました。

(JFAオフィシャルサイトより)

日本ヤタガラス協会設立にあたって
一私(たち)の思い一

- 1)「日本」と、(改めて)向き合う機会としたい
一ヤタガラスで国内各地とつながろう!
一ヤタガラスで昔といまをつなげよう!
- 2)「世界」と、(改めて)向き合う機会としたい
一ヤタガラスで東アジア、世界とつながろう!

“時間”と“空間”を越えて
“仲間”の輪を広げていきましょう!

年表：日本サッカーのあゆみ

導入期

- <1863年 イングランドでFA(The Football Association)創設(近代スポーツとしてのサッカーのはじまり)>
 1868(明治元)年 YC&AC創設(横濱外人クラブ。神戸でも1871年に外人クラブが創設)
 1873(明治 6)年 築地の海軍兵学寮にてサッカー実施(「日本にはじめてサッカーが紹介」とされる)
 1878(明治11)年 体操伝習所(のちの東京高師体操専修科)が創設。教科の一つにサッカー導入
 1885(明治18)年 坪井玄道『戸外遊戯法』刊行(日本語でサッカーを紹介した最初の文献)
 1886(明治19)年 帝国大学運動会(部活動の始まり)
 1896(明治29)年 東京高師運動会(嘉納治五郎校長)。フートボール部設置(日本人初の蹴球部)
 1903(明治36)年 東京高師蹴球部『アソシエーション・フットボール』【中村覚之助の功績①】
 1904(明治37)年 東京高師0-9YC&AC(日本人初の公式試合)【中村覚之助の功績②】
 1907(明治40)年 東京高師vs青山師範(日本人同士の初試合)

- <1915(大正4)年 全国中等学校優勝野球大会(主催：大阪朝日新聞社。「夏の甲子園」のはじまり)>
 1917(大正 6)年 第3回極東選手権に初参加 ●0-5中国、●2-15フィリピン(日本代表は東京高師)

戦前の発展期

- 1918(大正 7)年1~2月 東京・名古屋・大阪にて蹴球大会
 ・日本フットボール大会 ア式・ラ式(主催：大阪毎日新聞社)
 ・東海蹴球大会(主催：新愛知新聞社)
 ・関東蹴球大会(主催：東京蹴球団、後援：東京朝日新聞社)
 1919(大正 8)年 FAから銀杯授与
 1921(大正10)年 大日本蹴球協会(いまのJFA)設立。第1回全日本選手権大会(いまの天皇杯)開催
 1923(大正12)年 関東大震災。チョウデン(ビルマからの留学生)による全国巡回指導はじまる
 1930(昭和 5)年 第9回極東選手権 ○7-2フィリピン、△3-3中国 / 第1回FIFAワールドカップ(ウルグアイ)
 1931(昭和 6)年 大日本蹴球協会のシンボルマークに「三足烏(ヤタガラス)」【内野台嶺・日名子実三】
 1936(昭和11)年 ベルリン五輪に初出場。「ベルリンの奇跡」(優勝候補スウェーデンに3-2の勝利)
 1943(昭和18)年 すべてのスポーツ活動が禁止

戦後

- 1946(昭和21)年 全日本選手権復活/第1回国民体育大会
 1954(昭和29)年 FIFAワールドカップ・スイス大会予選で初の日韓戦 ●1-5、△2-2韓国(いずれも東京開催)
 1956(昭和31)年 メルボルン五輪予選で韓国と ○2-0、●0-2、抽選で日本が出場(いずれも東京開催)
 1960(昭和35)年 ローマ五輪の出場権を逃す。西ドイツからデットマール・クラマー氏をコーチに招聘
 1964(昭和39)年 東京五輪。日本サッカーはベスト8
 1965(昭和40)年 日本サッカーリーグ創設(アマチュアスポーツ初の全国リーグ)
 1968(昭和43)年 メキシコ五輪第3位。得点王は釜本邦茂 ※しかし世代交代に失敗し世界大会に届かず
 1977(昭和52)年 奥寺康彦が1FCケルン(西ドイツ)入り。日本人プロ第1号
 1986(昭和61)年 日体協スポーツ憲章(プロを公認)。サッカーでは奥寺康彦と木村和司の2名がプロ登録
 1993(平成 5)年 Jリーグ開幕
 1996(平成 8)年 アトランタ五輪に28年ぶり出場。「マイアミの奇跡」(優勝候補ブラジルに1-0の勝利)
 1998(平成10)年 FIFAワールドカップ・フランス大会に初出場
 2002(平成14)年 FIFAワールドカップ韓国・日本大会で初のベスト16(韓国はベスト4)
 2011(平成23)年 FIFA女子ワールドカップで「なでしこジャパン」が初優勝
 2019(令和元)年 日本ヤタガラス協会設立総会
 2021(令和 3)年 日本サッカー協会(JFA)100周年